

ウチヤ丸の航跡

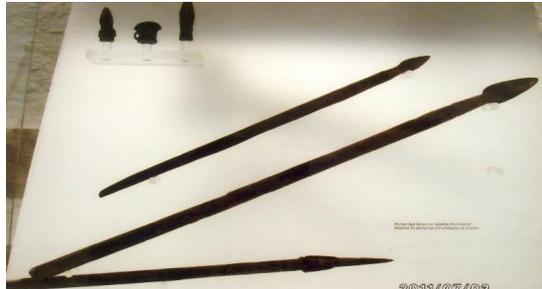
ウチヤ・サーモスタット株式会社
代表取締役会長 打矢正雄

ウチヤ・サーモスタットは主に電気機器や自動車機器を温度過昇による発火・損傷から保護するためのバイメタル式温度過昇防止器を製造販売して63年目になります。

「打矢」とは先端に矢じりの付いた手投げ槍（長さ約90センチ）のことで、打矢家の先祖は平安時代に武具鍛冶を生業とし、この手投げ槍を平家に納めていたと言い伝えられています。平家滅亡後は秋田県の郷に隠遁して代々鍛冶屋をして来たとのこと。余談ながら、この手投げ槍のことを英語ではスピアと云います。かの英国の著名な劇作家のシェークスピアを和訳すると（投げて）振動させる槍、つまり打矢と同じ意味になります。



日本に現存する打矢（ダヤ）



アイルランドに残る打矢（ダヤ、スピア）

創業者、打矢友祥の祖父が秋田から上京して文京区で事業に成功し財を成しました。打矢友祥は海軍兵学校に入り、戦後は早稲田大学電気科を出て大日本機械工業に就職しましたが、29歳の時に独立し、葛飾区に電気接点の製造を創業しました(1956)。その後現在の三郷市に移って、製品も接点からバイメタル式サーモスタットに移行しました。

ウチヤの最大の特徴は、8X5 (mm)の小さい長方形のバイメタルを開発したことです(1971)。

従来の円形（ディスク型）バイメタルの持つ弱点を改良し、サーモスタットの短小化を実現しました。

8X5とは、「黄金分割」と言われ、美的にも効率的にも一番理想的な縦と横の寸法の比率を意味します。正確には $(\sqrt{5} - 1) : 2$ 、または約 $1 : 1.618$ 又は $0.618 : 1$ です。



8X5 バイメタル



パルテノン神殿も8X5比率

この8X5バイメタルを利用してヘアドライヤ用のサーモ(UD3, UB7)やモータ、電源、トランス用のサーモ(UP62, UP72)等の安全重要部品を大量に世の中に送り出してきました。つまり当社の経営目的である「製品とサービスを通じて社会に安全を供給する」に専心して参りました。

1985年に初めての海外工場を香港に立ち上げ、私自身が5年間駐在して主にヘアドライヤ用サーモを月産約500万個造り、ヘアドライヤ用サーモの市場占有率で世界ナンバーワンを

達成することが出来ました。約35年前に香港に工場進出した当時は日本からの進出企業はほんの僅かでしたが、その後多くの製造業が香港を通り越して中国内に工場進出しました。結局、ウチヤは中国進出を見送って現在もなお香港工場でサーモを継続製造しています。

一方、ウチヤは早くから欧州市場の開拓に乗り出して、欧州最大の家電見本市「ドーモテクニカ（ケルン）」に初めて出展し(1978)、最近中国メーカーが過剰に進出して来た煽りを受けてドーモテクニカ自体が自然消滅するまでの間、毎年ドーモテクニカに継続出展して来ました。現在は欧州では主にエレクトロニカ（ミュンヘン）に出展しています。

1978年頃、ドイツの潜在大手客先を直接訪問した時に、相手の技術者からサーマルプロテクタへの要望を聞き出し、その仕様を基に大至急で開発し約半年後に試作品を持ち込んで提示したところ客先はその試作品を大変高く評価されてその後直ぐに採用して下さいました。その時開発した製品がUP62で、その後UP62はドイツを始めイタリーなど欧州の数多くの客先で採用されることになりました。ドイツのフォルツハイムに販売会社を設立し(1986)、その後アイルランドのダブリンに当時の田中常務と清水工場長が約5年間駐在しウチヤアイルランド社という製造販売の現地法人を立ち上げて(1994)、現在もウチヤのサーモを数多くの欧州の客先向けに供給し続けております。

最近、UB7を改良したUB8P型サーモが欧州のダイソン社のヘアドライヤーに搭載され大幅な収益改善に役立っております。名誉なことに葛飾税務署長による優良申告法人表敬をこれまでに合計8回受けており、経産省による「元気な中小企業300社」にも選ばれました。

長らく電熱組合の常務理事を務めた前会長の打矢友祥が昨年9月に90歳で他界し、今年6月に打矢正雄会長（電熱組合副理事長）、清水澄人社長の新体制で新たなウチヤ丸の出航となりました。この先も、色々と数多くの困難が待ち構えていると思われませんが、益々頑張っ参りたいと考えておりますので、皆様方には今までと変わりなく末永いご指導・ご鞭撻を賜りたく、何卒よろしくお願い致します。

